

FIDIC NEWS May 2009

訳責：国際活動委員会 IFI 分科会

脚注：この抄訳は IFI 分科会の若手サブメンバーの翻訳を分科会で監修したものです。

A. 活動 (FIDIC - Activities)

A.1 地球規模の課題に対する持続的解決策の提供 (Delivering sustainable solutions to global challenges)

「地球規模の課題に対する持続的解決策の提供」というFIDIC2009ロンドン大会のテーマは最近の金融危機の点から見て全く新しい意味を持っている。というのは、このテーマが極めて緊急な課題として取り組む必要のある他の主要な世界的課題の背景となっているためである。これらの課題には気候変動、増大するエネルギー需要、高まるインフラ投資の必要性、大規模な都市化が含まれている。その課題に効果的に取り組むために、世界はコンサルティングエンジニア業界のリーダーシップ、経験、創造性を必要としている。コンサルティングエンジニアは自分たちに、これらの課題に対して持続的解決策を提供し、世界が不況から抜け出すための手助けをする役割がある事を認識しなければならない。そのためには、先頭に立ち、人材を動員し、専門的技術と知識を応用しなければならない。大会は3つのサブテーマ、1) 業界の課題と提言、2) 重大な地理的および活動分野別の課題、3) より敏捷で即応性が良くかつ注目を浴びる業界への発展、について深く掘り下げることになる。これは、業界が確実にこれらの課題への取り組みをリードしていくために、FIDIC、会員協会および会員企業がとるべきカギになる行動を特定するといった目標につながる。ビジネスセッションでは各テーマを細く分解し、分析する。毎日行われる総括セッションの結果は、FIDIC2010ニューデリー大会に向けた基本合意事項としてまとめられる。



非常に魅力的な料金が大会の主会場となるホテル（メイフェアのパークレーンにある5つ星ホテル、グロブナーハウス）での宿泊や、幅広い企画のオプションツアーやイベント、大会用に準備されたイギリス、スコットランド、アイルランドへのポストコンファレンスツアーなど、様々なプログラムに適用されている。「FIDIC地球白書」を含む新しいFIDIC刊行物が、この大会で公開される予定である。また、同伴者、若手専門職向けの様々なプログラムも用意されている。全詳細は大会ウェブサイト (www.fidic2009.org) から入手できる。参加者はこのサイトで登録、予約もできる。

【AJCE 事務局より】AJCE からは毎年 20 名程度が参加しております。また、AJCE では航空機とホテルをセットにした格安ツアーを準備しております。ツアーの詳細についてはAJCE 事務局(TEL:03-3839-8471)まで。

A.2 景気刺激策に様々なアプローチをとる業界団体 (Industry associations adopting many different approaches)

世界中からの数多くの報告書が、信用の枯渇により影響を受けた経済を刺激するための手段として、「インフラ投資を増大、加速化するように」と力説している。発表された景気刺激策による追加額は、当業界全売上高の約 3%に相当する 200 億米ドルに達している (Survey 参照)。FIDIC 会員は、投資が確実に有効に行われ、コンサルティングエンジニアの重要な役割が確実に理解されるように、行政に対して強く働きかけている。



その多岐にわたる行動の一部を紹介すると、以下の通りである。

AJCE (日本) は、FIDIC2009 ロンドン大会で掘り下げることになっている世界規模の「持続可能な解決策の提供」市場に対して会員企業の参入を支援するため、能力開発の重要性を強調し、増加したプロジェクト資金提供に迅速に対応できるよう、関係協会とともに政府に対してはたらきかけた。

CESA (南アフリカ) も、業界のトレンドをより徹底的に調査した上で、会員企業が自分たちのビジネスに起こりうる危機の影響について議論するために特別なイベントを企画している。

VBI (ドイツ) は、コンサルタント業務を輸出保証の対象に含めることを含め、投資を促進するために調達手順を簡素化させることにすでに成功している。

ACEC (カナダ) は、コンサルティングエンジニア業界もカナダ国民も利益を得られないような価値の低いプロジェクトを避けたいと考えている。そのためには景気刺激関連プロジェクトの完成期限を延期するように連邦政府を説得する必要がある、利害関係者と共に活動している。

ACEC (米国) は財政的裏付けのない 3% の源泉徴収を抑制するというような特定条項に賛成論を唱えている連邦議会のリーダーに景気刺激に関する一連の書簡を送付した。

ACE (イギリス) は、投資が正しい領域で確実に実施されるように、政府や公的機関と共に全国的にも地域的にも活動している。

Syntec (フランス) は政府と提携して、危機による影響を緩和することに効果のある分野でのエンジニア向けの研修を計画している。

B. 事業展開 (Business - Development)

B.1 安全確保に関する指針の策定計画 (Design for safety guidelines planned)

建設現場関係者の健康と安全は、関心の高いトピックであり、多くの国において法律の導入や強化が行なわれている。いくつかの事例において、広い範囲に及ぶ法律は、コンサルティングエンジニアに建設過程における責任を、不適切に負わせている。そこに共通する問題は、当局者が設計者の役割を理解していないために、設計者の責任を追求することが合理的であるか否かに関わらず、あらゆる「設計に起因する」事故の責任を設計者に負わせようとするため、役割 (注意義務) と責任 (理不尽あるいは不公平な法的異議申し立てにさらされる) とのバランスが失われていることである。FIDIC 業務委員会の安全確保に関するタスクグループは、設計と施工に関わる全ての主要な関係者の安全に関する適切な役割と責任を規定した指針を起草することとした。建設工事の安全確保に関する主要な責任は、それを最も良くコントロールできる側にあるとすれば、それは通常は工事請負業者である。この指針では、建設の安全に関してコンサルティングエンジニアが負うべき適切な役割と責任も規定する。

C. 実務 (Business - Practice)

C.1 IS09001 品質マネジメントシステム - 要求事項 新版発行 (Revised quality management requirements standard published)

IS09001 品質マネジメントシステムはおよそ百万件の認証実績を持つが、従来の 2000 年版は要求事項の明確化と他の基準との整合性向上を目的に改訂され、IS09001:2008 品質マネジメントシステム - 要求事項に置き換えられた。ユーザは自らの品質マネジメントシステム (QM) の調整が必要となる可能性があるため、新版の改訂要約対比表を参照して現行の解釈に対する新版の影響を検討する必要がある。注意点は、2010 年 11 月からは 2000 年版は無効となることである。ユーザはそれぞれの認証機関にコン

タクトし、認証のアップグレード更新の承認を取る必要がある。2000 年版と 2008 年版が共存する間のユーザを支援するために作成された「実施要領」がインターネット上で入手可能である。

FIDIC 品質管理委員会委員長の Walter Painsi は、今後の ISO9001 の改訂を担う ISO 技術委員会 176 運営委員会の 2009 年 2 月下旬の会合に出席した。2015 年頃に予定されている次回改訂の方向性についてのブレインストーミングの結果に対して、関係者にコメントを求められることとなる。当面 FIDIC 委員会は、ISO に認知されているコンサルティングエンジニア業界用の分野別解説書である「FIDIC 品質管理ガイド」および「FIDIC ISO 9001:2000 品質管理を推進する為の指針」に対する新版の与える影響を分析する予定である。

D. 契約約款 (Business - Contracts)

D.1 契約約款の労働条項改訂 (Labour clauses in contracts to be revised)

国際労働機関 (ILO)、国際建設業者協会連合会 (CICA) と国際建設・林業労組連盟 (BWI) は、2 年毎に建設部門における社会的問題の契約の側面について調査を実施している。2009 年 2 月の総会では、「調達における社会的要求事項を順守するための契約書の利用」について調査を実施した。BWI は、例えば「要求事項は顧客から現場までの明確な責任と共に、契約書と技術仕様書の両方に記載されるべきである」と指摘している。最新の調査では、FIDIC 建設契約約款などの民間部門の契約条件書だけでなく、最近見直された ILO の労働条項協約である「適切な業務指針」、国際融資機関 (MDB) の調達も対象とされている。FIDIC 専務理事 Enrico Vink は、社会的配慮は FIDIC 契約約款の特別条項に適切に盛り込まれていると報告した。FIDIC の契約約款、特に MDB 版は、社会的問題を解決していく道具として認知されている。国際融資機関は、利用している現行の FIDIC 契約約款 MDB 版を徐々に国際金融公社 (IFC) の実務基準に統一させていくことを発表した。この国際金融公社の実務基準は、顧客に対する重要な新しい要求事項を定めており、そのいくつかについては、いくつかの国の機関から強い反対を受けている。1999 年版 FIDIC 建設契約約款の改訂案を提案するための作業グループは、国際金融公社の基準を一般条項に組み込むように検討する予定である。一方、FIDIC は ILO、CICA、BWI と共同で、契約における労働条項に関するガイドを策定する予定である。

E. 協会活動 (Industry - Representation)

E.1 湾岸諸国が再構築の必要性を認識 (Gulf states confirm need to restructure)

近年の中東湾岸地域での急激な経済成長は、政府当局に対して、特に建設部門での規制を改善するように促している。例として、政府当局は、FIDIC 契約約款を地域の要件に整合させるためのライセンスを取得し、各国特有の契約条件について確認する必要を無くした。FIDIC もまた、研修の開催や、地域組織間の調整強化によって、これに対応している。2009 年 2 月、FIDIC 次期会長の Gregs Thomopoulos は FIDIC 部長の Peter Boswell とともに当該地域の 6 ヶ国を訪問し、地域協会や政府関係者と会談し、またコンサルティングエンジニアの最適事例を取り上げた FIDIC のセミナーにも参加した。主に民間部門では、多数の建設プロジェクトの中断につながった世界規模での金融危機にもかかわらず、依然、コンサルタント業務の需要は力強い。この地域のコンサルティングエンジニア企業が地域のニーズに適切に対応するためには、地域的な組織化が新たな緊急の課題であることは明らかである。ほとんどの国が FIDIC 会員資格取得を重要なステップであると認識しているが、これらの国の企業は、最適事例と効果的な調達を促進するための明快な権限と組織を必ずしも有していない。個々の会員組織が、専門的能力、

規制、業務に関する課題に対処することが求められている。この問題に対処するため、FIDIC は会員協会に対して「会員企業を代表する理事会を効率的に機能させ、また、会員が自発的に参加する独立した組織となるよう努めること」を引き続き求めており、この点に関して著しい進歩が見られた。FIDIC 代表団は中東訪問の一環として新設されたクウェートエンジニア協会の役員と会談した。その訪問期間中、アラブ首長国連邦エンジニア協会は、業界団体の設立を支援すると表明した。オマーンとカタールの協会役員は、現地企業の能力開発の必要性を感じているが、再編を行うためには関連する法令が必要であると説明した。このような場合において FIDIC 代表団は、準会員が FIDIC のベストプラクティスを導入して首尾一貫した取り組みを行うように強く主張した。

F. イメージ (Industry - Image)

F.1 FIDIC GAMA アフリカ会議において、ミレニアム目標を評価 (FIDIC GAMA Africa conference takes stock of millennium goals)

ミレニアム開発目標の評価に向けて、技術者は準備出来ているのか？をテーマにした 2009 年 FIDIC アフリカ地域会員協会連合 (GAMA) 大会が 2009 年 3 月 15 日から 18 日にかけてダーバンで開催された。この大会において参加者は、「社会的・経済的な成長を達成するためには適所に強力なインフラが整備されていることが最も重要である」という FIDIC 会長 John Boyd の意見に賛同した。専門分野の観点からザンビア国家道路局の Raphael Mabenga は、目標達成が大きく輸送インフラに依存している例として、自国の再編した道路部門について紹介した。南アフリカ DWAF - WISA African Partnerships の Dr. Marlene Botha は、水部門全体にわたるパートナーシップを地域レベルにまで拡大するように、ザンビアの例を凌ぐ主張した。財務面の観点から、アフリカ開発銀行の代表者は、同銀行は官民パートナーシップを通じた民間企業への増資がなかったら、融資はインフラ関連の公的部門のみのものであったと指摘した。南アフリカ ABSA Capital の Thando Mhlambiso は、「今後 40 年間にアフリカ 12 カ国の基幹産業が必要とする資金 1 兆 US ドルにもなるが、資金調達の一つとして民間投資を促すことを目的とした特任部署を設置した。」と説明した。



FIDIC の会長が指摘したとおり、コンサルティングエンジニアもまた、リビアの貯蓄不動産投資銀行の Abdulhamed Abou Abdalla と、南アフリカ Kwezi V3 の Ian Young による議論に沿ったリーダーとしての役割を果たしてきた。彼らは、ターンキープロジェクトにおいて、リビアのコンサルタントがどのように投資銀行と連携したかについて説明した。南アフリカ PD Naidoo and Associates の Kribbs Moodley もまた、同様の概念を提案した。彼は、ミレニアム目標を達成するために、エンジニアリング、ビジネス、地域の知識及びネットワークを統合する計画を示した。アフリカの 15 カ国からの代表を含む 170 人の会議参加者の多くが、GAMA 総会に出席した。この総会では、タンザニアの Exaud Mushi に代わって、ナイジェリアの Mayen Adetiba が GAMA 議長に選出された。Exaud Mushi は開会の挨拶で、汚職に立ち向かう必要性を強く主張した(その発表は、FIDIC.org/GAMA で見ることができる)。2009 年の GAMA 理事会メンバーは、写真後列左から、チュニジアの Nabil Chater、タンザニアの Mwesigwa Kamulali、スーダンの Ashraf Zaki、ボツワナの Bob Izzett、ザンビアの George Sitali、ナイジェリアの Mayen Adetiba、及び南アフリカ共和国の Arthur Taute である。

F.2 FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合 (ASPAC) 会議はより大きな役割を目指す (FIDIC ASPAC

conference envisaged a greater role)

金融危機が貿易障壁を強める傾向にある現在、グローバル化の推進は最優先事項である。インフラ投資が多くの景気刺激策になっていることを考えると、コンサルタントの役割は恐らくより明確である。2009 年 FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合 (ASPAC) 会議は 3 月 11 から 13 日にかけてカトマンズで開催された。この会議は SCAEF (ネパール協会) によって準備運営された。会議では、国際的なパートナーシップの中で、コンサルティングエンジニア産業の有効性を強化することを目的とした。会議を始めるにあたって、ネパール首相 Pushpa Kamal Dahal と公共事業省、科学技術省、財務省からの 3 人の閣僚は、政府が、「必要とされているものは何か」、「どこから資金を調達するか」、「どのような法律が解有効か」、「そのプロジェクトをどのように成し遂げるか」を明確にするためには、コンサルティングエンジニアによる技術的な解決策の提供だけではなく、コンサルティングエンジニアの支援が必要であることを強調した。FIDIC 会長 John Boyd、FIDIC 次期会長 Gregs Thomopoulos、および ASPAC 議長廣谷彰彦は、公共工事に求められる投資額の 52% が政府の資金によるものであり、技術者はそのほかの資金源による業務に関与していることを報告した。首相は、自国の政府が官民連携を政策として促進していることに言及した。



廣谷彰彦議長は、アジア - 太平洋地域の 15 カ国から 150 人の参加者の協力を得て、コンサルティングエンジニア及び ASPAC の活動の現状をレビューした (プレゼンテーション資料 http://www1.fidic.org/news/news_docs/aspac09_hirotoni_may09.pdf 参照)。経済成長とインフラに対する需要は相変わらず力強いが、景気は悪化しつつある。ASPAC は最近、以下のような能力開発に力点を置いて、持続可能な活動に焦点を当てている。それらは、FIDIC と会員協会による訓練プログラム、ASPAC 若手専門職フォーラムとそのウェブサイトを紹介した定期的な情報交換、ニュースレター、あるいは、ASPAC 会議や FIDIC/ASPAC 契約約款コーザ会議 (2009 年 6 月 29 - 30 日、香港) のような地域会議などである。

G. 倫理 (Principles - Ethics)

G.1 南アフリカ政府が公正性の確保を推進 (South African government urged to underwrite integrity)

南アフリカのコンサルティングエンジニア業界にとって新しいアイデンティティとなる「南アフリカコンサルティングエンジニア協会 (CESA)」が 2009 年 2 月上旬に発足した。CESA 会長 Felix Fongoqa (写真) は、自国の建設業界に蔓延しているいかなる汚職行為に対しても、一歩も引かない取り組みについて講演した。FIDIC ビジネス公正管理システム (BIMS) の継続的な普及活動に沿って、反汚職とビジネス公正性確保に関する会議が計画された。CESA の狙いは、これまで会員内では知識でしかなかった BIMS を品質管理の一部として実行へ移すことである。彼はまた、公共事業の発注者に対して、政府調達公正管理システム (GPIMS) の採用を要請した。それは、高いレベルの公正性確保が信頼性の点で他のシステムに勝ることを保障するものである。彼は「私達は、このシステムをインフラ調達に関する国家的な施策として政府が採用し受け入れることを、組織として働きかけてゆく」と述べた。FIDIC GAMA アフリカ会議の直後、FIDIC 会長 John Boyd は同国を訪問した。そのわずかな訪問の間に、



実は交通省の上級官僚から BIMS を支持することと、この活動を広げるために財務省と公共事業省の官僚との会議を開く手助けをすることの確約を得ていた。会長が指摘したように、監督機関は汚職行為においては第三者であり、発注と受注の両当事者が行っていることをしばしば大目に見てしまうことがある。

G.2 建設業界が世界的な汚職行為を非難 (Construction industry condemns global corruption)

これは前例のない動きである。請負業界を代表する国際的な組織、FIDIC と国際建設業連盟(CICA)は、社会一般と特に持続可能なビジネス実務に対する汚職行為の負の影響を懸念する共同声明を発表した。両者は、民間部門は「透明性を向上し、非倫理的な行為を阻止すること」を目的とした手順をすでに取り入れて実施してきたことに言及した。しかしながら、これらの努力にも関わらず、それに対応する取り組みを実施すべき公共部門の多くは、公正性の確保をより効果的に管理するための内部手続きを改善してこなかった。このような状況を改善するために FIDIC と CICA は、国際金融機関や公的調達機関と公正管理をシステム化するために開発された実用的なツールを導入し、民間の発注者を代表する組織とのパートナーシップを立ち上げることを目指している。



I. 持続性 (Principles - Sustainability)

I.1 インフラは持続可能な開発のカギ (Infrastructure seen as the key to sustainable development)

2009 年 1 月 23 日にカンパラで開催された UACE (ウガンダ) - FIDIC 国際セミナーの開会の辞で、ウガンダの建設運輸大臣 Hon. John Nasasir は、確実に持続可能な開発を行うためにはインフラの保守が必要であることを強く主張した。曰く、「なぜなら、他の部門はインフラの適合性と品質に大きく依存しているからである」。このセミナーは、大臣が「この長い歴史で初めて民間部門主導で行なわれた」と認めたもので、2 日間に渡る FIDIC 契約約款研修コースに引き続き開催された。彼は、「確実に持続可能な開発を進め、投資効果を上げるために、最適なところへリスクを移行させることに重点をおいて取り組んでいる」ことを説明した。彼はまた、「政府は物理的な業務の遂行と説明責任を民間部門に任せ、公的資金の運用を合理化した。UACE がプロジェクトの効果的な管理を含む研修コースを始めたのは時宜を得たことである」と述べた。彼の省は、インフラ、特に道路への大規模投資から継続的に利益を得るために、利害関係者と協力している。彼は、コンサルティングエンジニアが信頼のおける助言者であり、建設業者には契約を遵守することを期待している。FIDIC は、能力向上を支援するという明確な使命を持って、国際研修プログラムの研修コースを開催することに UACE と合意している。

I.2 プロジェクト持続性に対する顕著な貢献が認知された (Outstanding contributions to project sustainability recognised)

2009 年 2 月にダブリンで開かれた ACEI (アイルランド) の年次表彰ディナーパーティにおいて、FIDIC 会長 Dr. John Boyd が「世界市場でのプロジェクト持続性マネジメント (PSM) の推進に顕著な貢献を果たした」ことに対して、ACEI 会長賞を受賞した。受賞演説の中で John Boyd 会長は、「困難な時代においても革新を進め、それによって我々の社会に一層持続可能な未来をもたらす」ようコンサルティングエンジニアを鼓舞した。PSM のカギは、工期厳守、予算厳守、本来の目的に適した持続性を確保していることは当然として、これに加えて、持続可能なプロジェクトのために設定された 7 つの目標達成であ



る。発注者がこれらの項目について少しでも検討すれば、FIDIC プロジェクト持続性マネジメントシステム(PSM)はプロジェクトの現場に適用する規制の枠組みに適合していることが解るはずである。プロジェクトは、現行の規制と持続性についての判断基準の間で極めて困難な状況に置かれる。どの程度深く本当の持続性を追求したかによって両者の持続性への貢献は、大きく異なるのである。会長は、FIDIC 国際研修プログラムの PSM 研修コースでは、PSM の原理がどのように実務に適用されるかを教授していることを指摘した。

1.3 建築物持続性評価基準の公表 (Sustainable construction assessment standard released)

建築物が温室効果ガスのほぼ 50%を放出している。従って、持続可能な開発への影響を評価するために、それらの環境性能項目を特定して示さなければならない。国際標準化機構 (ISO) 基準は、国際的に適用可能な建築物の環境性能評価手法の確立を目指している。そのような評価は FIDIC の PSM の中でも実施されている。基本理念、専門用語、そして環境、経済、社会面に関する評価の枠組みが ISO 15392、ISO/DTR 21932、ISO/TS 21929 - 1 にそれぞれ説明されている。そして建築物の環境性能評価手法の枠組みについてのより詳しい基準が ISO/FDIS 21931 - 1 として公表され、意見を求められている。この基準案は ISO/TS 21931 - 1/2006 との差し替えである (Part2 : Civil Engineering Work は作成中)。この基準案の大部分は一般的な内容を強調しており、1 章だけが重要な要素である評価手法について明確に記述している。これらの手法では、建築物を製品の統合された集合体、様々な活動の場、そして機能システムとして認識する。FIDIC 持続可能な開発に関する委員会による予備的な検討では、「手法に関係する重要な指針のほとんどは FIDIC の PSM の巻末資料に含まれている」ことが指摘された。より広い意味で、FIDIC は、環境マネジメントにおいて実施したように、持続可能な建築基準の適用に関する指針の提供を目指している。一方で、FIDIC 国際研修プログラムによって準備された国際イニシアチブ (iISBE) の「持続可能な建築物と建設に関する教育研修 (SBCET) コース」では、評価だけでなく持続可能な調達のより広い局面に関する基準も対象としている。

J. 行事 (Announcements - Events)

J.1 FIDIC の会議および国際訓練プログラム (FIDIC Conferences and International Training Programme)

2009 年 5 月 19 日 : FIDIC-FEPAC セミナー、サンパウロ

2009 年 5 月 21 - 22 日 : FIDIC - コーナーストーン社ワークショップ (契約約款)、ヨハネスブルグ

2009 年 5 月 25 - 26 日 : FIDIC - ECV 社研修コース (クレーム)、ウィーン

2009 年 6 月 8 - 9 日 : FIDIC - ECV 社研修コース (DABs)、ブリュッセル

2009 年 6 月 9 - 10 日 : FIDIC - DBT 集中研修コース (DABs)、サラエボ

2009 年 6 月 15 - 16 日 : FIDIC - コーナーストーン社ワークショップ (契約約款)、ブダペスト

2009 年 6 月 23 - 25 日 : FIDIC 集中コース (経営)、カタール

2009 年 6 月 29 - 30 日 : FIDIC - ASPAC 契約約款ユーザ会議、香港

2009 年 7 月 7 日 : FIDIC レバノンセミナー、ベイルート

2009 年 9 月 13 - 16 日 : FIDIC2009 年ロンドン大会

2009 年 10 月 14 - 16 日 : FIDIC - I C C 契約約款および紛争解決会議、イスタンブール

2009 年 10 月中旬 - 2010 年 2 月中旬 : eFIDIC オンライン研修プログラム (協定書)

K. 報告 (Announcements – Notices)

K.1 理事会が百周年の目標を達成するために戦略を見直す (Executive reviewed strategies to meet centenary objectives)

世界的な危機が身近に押し寄せる中で、慎重な予算編成、FIDIC サービスへの高いニーズ、FIDIC2008 ケベック大会での大幅な黒字、およびその他行事の黒字化によって、2008 年の FIDIC 決算は黒字が確定した。2009 年 1 月下旬、カンパラで開催された FIDIC 理事会では、FIDIC のサービスへのニーズの高まりに対処するには追加予算が必要であることを確認した。以下の文書の新版あるいは改訂版の起草グループの作業が強化された。

- 「品質に基づく選定ガイド」
- 「危機管理」
- 「安全設計」
- 「コンサルタント業務の業務範囲の定義」
- 「プロジェクト持続性マネジメント (PSM)」
- 「プロジェクトの調達」

理事会は契約約款委員会の委員長 Axel Jaeger の後任に予定通り Philip Jenkinson を指名する事を確認した。この委員会は FIDIC 建設契約約款 1999 年版の更新を提案している。研修に関しては、FIDIC 契約約款およびビジネス実務研修モジュールに基づいた新たな eFIDIC オンライン研修プログラムを開始する提案が承認された (モジュール 0: プロフェッショナルサービス協定書は 2009 年 3 月中旬に開始された)。オンラインによる若手専門職経営実務研修プログラム (YPMTP) (www.fidic.org/ypmtp) を基にした eFIDIC は開始以来 6 年目に入ったが、2009 年は 2 月に開始されている。また、各国のトレーナーを FIDIC 国際研修プログラムの実施に必要なレベルに引き上げて認定するための能力開発プログラムを継続すること、および IISBE と合同で PSM 研修モジュールの開発を支援することが承認された。2013 年の FIDIC100 周年大会を目標とした企画の詳細は FIDIC2009 ロンドン大会で発表される。

FIDIC は、地域での代表性を高め、他の産業との直接的な接触を行うことを通じて、この業界を発注者により近いものとすることを目指している。地域での代表性を高めるためには、FIDIC 首脳による計画的な訪問と、業界の動向を熟知している会員の支援を必要としている。これらの課題は、FIDIC 出納長の Adam Thornton が率いる作業部会で分析される予定である。バランススコアカードを用いた業務進捗管理によって、FIDIC は公正管理、持続性、調達、能力開発、および業界の代表性についての戦略的な「ビジョン 2013」の目標に対して、自身の生産効率をより適切に評価することが出来るようになった。理事会は、開発銀行への計画的な訪問継続を通じて、その進捗を確認している。

K.2 配布資料 (Members)

理事会、サンパウロ、2009 年 5 月 21 - 22 日

メンバー協会手紙 01/09 : EFCA 調査 PDF

メンバー協会手紙 02/09 : E C 指名 PDF

メンバー協会手紙 03/09 : ASPAC 契約約款ユーザ会議 PDF

以上